

徳島県立総合看護学校
令和6年度第1回 学校運営委員会 議事録

1 日時

令和6年9月18日（水） 午後2時55分～午後4時15分

2 場所

徳島県立総合看護学校 会議室

3 出席者

(1) 委員

頭師委員長、齋藤委員、葉久委員、三宅委員、岩佐委員、森口委員

(2) 委員以外

・委託業務管理責任者

山本委託業務管理責任者（徳島県立総合看護学校）

・オブザーバー

多田課長補佐（徳島県医療政策課）、中村事務局長（徳島県医師会）

・事務局（徳島県立総合看護学校）

岡山副校長兼事務長、藍原副校長、水田教頭

・補助者

（徳島県医師会事務局）

大西次長、田上課長補佐、玉木係長

（徳島県立総合看護学校）

総務担当 矢口係長、氏橋係長、遠藤事務主任

教務担当 中野第一看護学科長、斉藤第二看護学科長、小川准看護学科長

4 次第

(1) 学校長あいさつ （略）

(2) 議事

ア 資料説明（学校運営状況等）

イ 学校運営に関する協議

5 議事

(1) 資料説明

岡山副校長兼事務長から、学校運営状況等について資料に基づき説明。

(2) 質疑・意見等（要旨）

・葉久委員

第一看護学科の社会人入試について、出願資格が21歳以上ということだが、上限の年齢はあるのか教えていただきたい。就職の際、年齢要件を満たさない可能性もあるのではないか。

・頭師委員長

上限の年齢は設けていない。就職時の年齢制限については、それぞれの病院等の募集の仕方によるものと考えている。

・ 三宅委員

第一看護学科社会人入試の出願資格で「卒業後は県内に就職の意思がある者」という条件の必要性を教えてください。入学者が少ないのであれば、門戸を広げた方が良いのではないかと。

・ 頭師委員長

様々検討した結果であるが、社会人入試はどの県でも実施している訳ではないので、県外から本校に入学し、卒業後は県外で就職するという人もいないかということも考慮して、この要件を設けさせていただいた。推薦入試と社会人入試を合わせて 25 名募集しており、出願者数の予測が難しいところもあるが、これまでの推薦入試合格者は安定して募集人数を満たしているので、社会人の合格者はある程度絞られてくると考えている。

・ 三宅委員

オープンキャンパスに 220 名が参加されたとのことだが、何かアンケートは実施されたのか教えてください。

・ 頭師委員長

参加者アンケートを実施した。オープンキャンパスを知ったきっかけは、学校ホームページが最も多い結果だった。どういう情報を知りたいかという問いに対しては、学校生活に関することはもちろん、卒業後の進路や就職先、資格試験の合格率などに関心があることが分かった。他にも色々質問しているので、今後分析をして参考にしていきたい。

・ 三宅委員

休学者の復学率はどれくらいか教えてください。

・ 藍原副校長

経済面等の環境が整わないため復学できない学生もいるが、ほとんどが復学している。

・ 三宅委員

学生は非常に貴重な人材。休学して途切れてしまうのではなく、学校側から何かフォローをされているのか教えてください。

・ 山本委託業務管理責任者

休学者に対しては、教員が随時連絡を取りながら、しっかりと支援に取り組んでいる。

・ 岩佐委員

入学生の確保が課題になっていると思うが、入学試験合格者の辞退理由を教えてください。

・ 水田教頭

第一看護学科 14 名の辞退者については、大学志向が高まっていることもあり、徳島大学などに合格したため辞退したいという理由が多い。

・ 藍原副校長

准看護学科は併願をしている学生が多く、9名の辞退者についても、他の専門学校や大学、本校の第一看護学科に合格したため辞退している。

・ 岩佐委員

第一看護学科では大学志向、准看護学科でも高等教育志向が見られる中で、将来の構想はどのようにお考えか教えていただきたい。

・ 頭師委員長

高校生を中心に大学志向が非常に強いということは、高校訪問の際にも担任教諭からよく話ができる。その流れがあるのは承知の上で、まずはなんとか学生の確保をしようと取り組んでいるところ。今後については状況を見ながら検討していきたいと考えている。

・ 岩佐委員

高等教育志向の中で、専門学校としての良さをPRして、学生確保に繋げることも検討していただければと思う。

・ 山本委託業務管理責任者

卒業後の県内就職率について、第一看護学科は65%、第二看護学科は88%、准看護学科は90%となっている。大学の状況と比べていかがか。

・ 岩佐委員

徳島大学は県立大学ではないので、県内就職を前提にしていない。県外からの入学生も多いので、大学と比較してというのは難しい。県立学校としては県内就職率を高くするのは当然のことかと思う。

・ 齋藤委員

経済的理由による退学・休学者について、どれくらいの奨学金があれば続けられるか、お分かりになれば教えていただきたい。

・ 藍原副校長

一例ではあるが、働かなければ生活ができないという学生もいる。学習に必要な部分は学校が支援できるが、働きながらではなかなか学習についていけないので、ある程度生活費の貯蓄をしてから復学している。

・ 森口委員

進路状況と奨学金の関係で、第二看護学科は県内就職率が高いということで見てみると、県修学資金の受給者も多い。一方で、第一看護学科は県修学資金の受給者が少ない。日本学生支援機構奨学金を活用している学生が多いのだろうと思うが、できるだけ県修学資金を活用していただければ、県内定着率が高まるのではないか。日本学生支援機構奨学金と県修学資金のスケジュールを教えていただきたい。

・氏橋係長

日本学生支援機構奨学金は、春採用と秋採用があり、通年で募集が行われている。県修学資金は、医療政策課から夏頃に募集があり、学生に周知をしている。年度当初に学生に対して奨学金制度の説明を行い、希望する奨学金に申し込んでいただいている。

・森口委員

学生にとって、日本学生支援機構奨学金と県修学資金では、どちらが魅力的だと考えられるか。

・氏橋係長

日本学生支援機構の給付型奨学金は、授業料の減免も併せて受けることができるため希望する学生は多い。県修学資金は枠があり、第一看護学科の場合、今年度の新規貸付枠は3名である。

・岩佐委員

日本学生支援機構奨学金は、高校在籍時に予約ができるので安心して進学できるということもあるのだろう。県修学資金は入学後に知るとか、事前に調べていても受給できるかどうか分からない不安もあるのではないかと。事前予約ができると魅力が上がると思う。

・頭師委員長

学生の県内定着は非常に大きな課題であり、県で各種施策を実施している一方で、他の制度も充実してきているので、それらの活用についても検討していきたい。我々としては県内に就職してもらいたいという思いがあるが、学生自身の志向や希望もあるのでなかなか難しい。本校では、県立中央病院の防災訓練を始め、県内医療機関の行事等へのボランティア参加を積極的に促している。また、地域との連携や、地域を見直す内容の授業を実施している。そのようなことが、県内医療機関の魅力への気づきや、親しみにも繋がるのではないかと考えている。

・岡山副校長兼事務長

県病院局の採用試験の実施時期が遅いため、県立病院を希望していても他県で先に就職が決まれば県外を選んでしまう学生がいる。

・頭師委員長

学校には様々なところから募集要項が届くが、非常に早く来ている。どんどん前倒しになっており、兵庫県などは4月頃から募集している。試験は早いところでは5月くらいから始まっている。

・水田教頭

合格通知も比較的早く来るので、そこで決める学生もいる。

・三宅委員

県外を選んだ理由について、アンケートや意見聴取をされていれば教えていただきたい。なぜ県外に出て行くのか、意見をしっかり聞いてまとめていくと、参考になるところがあると思う。

・ 水田教頭

令和5年度卒業生の担任によると、コロナ禍で制限の多い生活をしていたため、都会への憧れで県外を選んだということだが、将来的には帰ってきたいと言っている。

・ 葉久委員

県立中央病院にも実習に来ていただいているが、将来県立病院に就職を希望してもらえるように、十分サポートをして、改善できるところは取り組みたいと考えている。学生に対して、実習実施機関についてのアンケートなどを実施されているか教えていただきたい。

・ 藍原副校長

授業評価で、実習のアンケートをしているが、科目の指導体制も含んだ内容となっている。

・ 三宅委員

実習をしている側からすれば、フィードバックは非常に重要だと思う。実習のサポートが不十分であれば、実習に来た学生は当然こんなところには勤めたくないと思う。そういうところを返してもらえなければ分からない。

・ 水田教頭

実習総合調整担当の教員が、実習先の教育担当師長さんと、学校からの要望や病院からの連絡事項などをやり取りしながら、効果的に実習できる環境整備に努めており、連携に感謝している。院内の教育委員会などにも参加させていただき、学校での実習の状況を聞いていただく機会も設けていただいている。そういうところも活用しながら、教育担当師長さんと連携して進めていきたい。

・ 齋藤委員

実習を受け入れてもらっている立場で遠慮があるのだろうと思うが、要望は伝えた上で、できないことはできないと言ってもらう方がいいのかもしれない。実習先がなく先生方が非常に苦労しているので、ぜひよろしくお願いしたい。

・ 頭師委員長

県立中央病院及び徳島市民病院を始め、実習先の皆様には大変お世話になっている。水田教頭が申したとおり、現在は実習調整者が間に入り、緊密にやり取りをさせていただいているが、フィードバックは病院側のメリットもあると思うので改善を図っていきたい。

・ 齋藤委員

授業は講師の負担も大きいと思うが、オンライン授業は認められるのか。

・ 藍原副校長

録画のみではだめだが、双方向であれば認められる。

・ 齋藤委員

徳島のように県が熱心に取り組んでくれている准看護学科、第二看護学科は唯

一といえる。少子化で受験生が減り、医療関係は何処も苦しい状況にあるが、頑張っていたきたいと思う。

- ・ 山本委託業務管理責任者

准看護学科の学生は年齢層が幅広い。学校としては、准看護師教育も重要だと考えており、年齢が高くても、社会人をリクルートして准看護師として育成したいと考えている。現場での准看護師の評価はいかがか。

- ・ 齋藤委員

診療所では看護師がなかなか集まらない現状があり、准看護師は貴重な戦力だと思う。正看護師を目指すため第二看護学科に進学する学生も増えており、国家資格試験合格率を見ても第一看護学科に引けをとらない高い合格率となっている。第一看護学科が社会人入試を実施するということは更に優秀な社会人が入学する可能性があると思う。

- ・ 山本委託業務管理責任者

18歳人口が減少しているので、准看護師を希望する社会人をしっかり育てて、地域貢献できるよう取り組みたいと考えている。

- ・ 齋藤委員

准看護師も大切だが、その後、正看護師に進むところを、医師会としてもバックアップしていかなければならないと考えている。

- ・ 頭師委員長

准看護学科においても社会人が受験しやすい入学試験のあり方について検討しているところであり、今後入試委員会で決めていきたいと考えている。

6 次回開催

- ・ 岡山副校長兼事務長

次回開催は来年1月下旬から2月頃を予定している。

以上